

「応用哲学・分析アジア哲学プログラム 参加報告書」

京都大学大学院文学研究科博士課程 1年 澤田和範

① 学習成果

台湾の政治大学・陽明大学・清華大学への二週間に渡る訪問によって、当地の教員や学生たちと学術的・文化的な交流を行い、「分析アジア哲学」という新しい分野を開拓するためのコネクションを構築することが派遣の目的であった。派遣者は昨年に引き続いての二度目の訪台であり、昨年に知り合いになった教員や学生たちと、さらに深い議論をかわすことができた。この派遣の具体的な成果は、第一に、後述する三つのワークショップへの参加を果たしたことである。政治大学では、昨年から引き続きナーガールジュナの哲学をテーマに、その研究成果を今年は五十嵐涼介とのジョイントで発表した。陽明大学や清華大学でもそれぞれのワークショップに出席した。第二に、ワークショップ以外では、新竹市の高校生を対象にした哲学入門トークや、清華大学の日本語授業のアシスタントとして現地の学生への日本文化紹介 (SEND プログラム) といった活動を行った。

② 海外での経験

台湾にあっては、西洋哲学以外のアジア哲学が西洋哲学と比肩する知的伝統として、大学の中で息づいていることが非常に興味深かった。ワークショップでも、三論宗、仏教認識論、西谷啓治、バツタチャーリア、ダールマキルティ、荘子などをテーマとする発表があり、アジア圏の哲学的営みの国際性や普遍性がますます実感された。また、ワークショップの後に催された夕食会などにおいても、ワークショップのトピックや自分の研究について、教員や学生たちと大きな支障なく議論が交わせたことは、英語での学術的会話の能力に関する自信につながった (が、同時に、幅広い話題について議論をかわすには、まだまだ語学力が不足していることも実感された)。

台湾は、日本と文化なども似通っていること (とりわけ漢字文化であること) や、概ね日本人に対して好意的であることなどから、日常的な生活については、とくに苦勞せずなじむことができた。

③ プログラム内容

上述したように、三つの哲学ワークショップ (1-3) と、日本語授業における文化交流 (4) が行われた。

1. 2014 NCC-KU-YaleNUS Workshop in Asian Philosophy. (3月7日-8日)
2. Yang-Ming Kyoto Workshop on Language, Mind and Action. (3月11日)
3. NTHU-Kyoto Workshop on Philosophy for Young Scholars. (3月13日)
4. 清華大学における日本語授業での文化交流 (日本紹介) (3月13日-14日、17日)

④ 進路への影響について

台湾の三大学や、ワークショップに参加したシンガポール国立大学の、哲学研究の状況を垣間見られたことは、たいへん有意義であった。とりわけ、教員や学生がアジア哲学を本格的に研究していることを目の当たりにできたことは、ふりかえって、自分が日本で西洋哲学を研究するということの意義を考えさせられた。

派遣者自身は、自分の研究分野との関係で英米圏への留学を考えているが、アジア圏の大学への派遣によって、英米圏での大学では得られない海外経験をj得ることができると確信する。このプログラムに再度応募することも十分考慮に入れるつもりである。